

映画『ザ・ティーチャー (Učitelka)』上映

(スロヴァキア、チェコ/2016年、102分。監督ヤン・フジェベイク)

+

脚本家ペトル・ヤルホフスキー氏とのディスカッション



現代チェコ映画を代表する脚本家ペトル・ヤルホフスキーをお招きして、代表作『ザ・ティーチャー』の上映、および同氏とのディスカッションを行います。

日時 2025年10月27日（月） 17:00～20:00（開場 16:50）

会場 東京大学本郷キャンパス法文2号館2階2番大教室

* 入場無料、予約不要



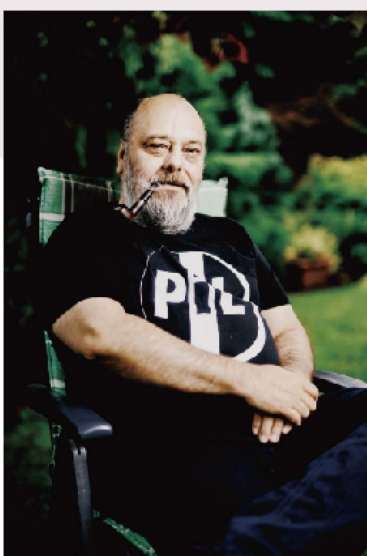
会場の QR コード

* 本イベントは、東京大学文学部の授業「旧ソ連・東欧の映像と文学」の一環として行います。

映画『ザ・ティーチャー (Učitelka)』

1980年代のスロヴァキアの学校が舞台。女性教師が職権を乱用し接待を要求するなか、保護者は彼女の退職を求めるが……。

チェコのカルロヴィ・ヴァリ映画祭で主演女優賞、スロバキアのSlnko v sieti (The Sun in the Net award) で最優秀映画賞、主演女優賞、脚本賞、音楽賞、観客賞を受賞。第29回東京国際映画祭出品作。監督は『この素晴らしき世界』でアカデミー賞外国語映画賞にノミネートされたヤン・フジェベイク。



講演者紹介

ペトル・ヤルホフスキー (Petr Jarchovský)

1966年生まれ。『この素晴らしき世界』(チェコ、2006年)、『アップ・アンド・ダウン』(チェコ、2004年) でチェコ獅子賞脚本賞を受賞したほか、アカデミー賞外国語映画部門に二度ノミネートされるなど、現代チェコ映画の第一線で活躍する脚本家。盟友ヤン・フジェベイク監督とともに、チェコの人びとの等身大の生活をユーモアや笑いとともに巧みに描くことで知られ、現在はプラハ芸術アカデミー映画学部 (FAMU) で教鞭を執っている。なお『この素晴らしき世界』は日本語に訳出されている (千野栄一・保川亜矢子・千野花江訳、集英社、2002年)。

プログラム

17:00-18:40

映画『ザ・ティーチャー』(日本語字幕) 上映

18:50-20:00

脚本家ペトル・ヤルホフスキー氏とのディスカッション

講師

ペトル・ヤルホフスキー

(脚本家、プラハ芸術アカデミー)

司会：阿部賢一 (東京大学)

通訳：イゴール・ツィマ (法政大学)

主催：東京大学文学部現代文芸論研究室、同スラヴ語スラヴ文学研究室、チェコセンター東京



字幕協力：東京国際映画祭

問合せ先：genbun@l.u-tokyo.ac.jp